

エコハウス研究会季刊紙

# そらどま

2022年

春号

第9号

2022 . SPRING vol. 9



## CONTENT

改めてサステナブルな住居とは何かを考える  
丸谷博男（代表理事）

事務局からのお知らせ

- ・丹波篠山レポート
- ・2022年エコハウス研究会活動スケジュール

古民家再生マイスター養成講座第1期・東京 集合写真  
自由学園・明日館（設計・F.L.ライト）

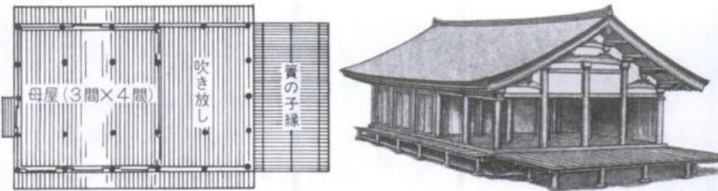


SORADOMA

# 改めてサスティナブルな住居とは何かを考える

縄文時代から弥生時代、そして奈良時代にかけては竪穴住居に庶民（農民他）は暮らしていた。これは現代にも通じるワンルームの暮らしだった。水回りの処理は周辺で済ませていたことと思う。

奈良時代の都に在る貴族たちの生活は、法隆寺にある伝法院の移築前に住居であったことからその復元が試みられている。藤原不比等（鎌足の子）の妻、光明皇后の母で在る**橘夫人の住居**の一建物と考えられている。東院創立の時、739年に移築されたとされている。



法隆寺伝法堂(前身建物復元図)

どのように使われていたか大変興味深い。屋根付きで吹抜の縁があり、その先には簀の濡れ縁がある。壁に囲まれた部屋と合わせ、三種の空間がありなやら夢がある。屋外空間との関わり合いも濃い。構造は母家のみである。

正倉院文書によって模型に復元された**藤原豊成**（704~766年、父は藤原武智麻呂）の住宅は、母屋と吹き放し庇の組み合わせでできている。寝殿造時代の構造と間取りの関係を表している。

桓武天皇が都を京都に移して後から平安時代（794~1185/1192）が始まる。基本は母家と庇空間の組み合わせであった。大規模になってもそれらを渡殿で連結するだけであった。複雑な屋根の掛け方や間取りの複雑化は武家時代に生み出された書院造りに反映される。しかし同時代の貴族の家は藤原定家の住宅のように寝殿造の構造に平安時代には無かった玄関である中門廊が付属されるといふ形であった。

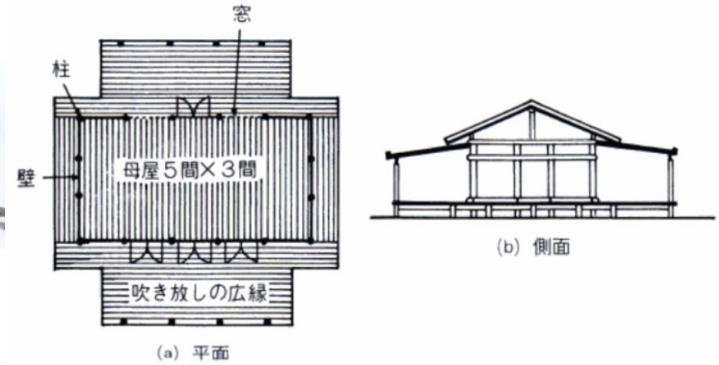
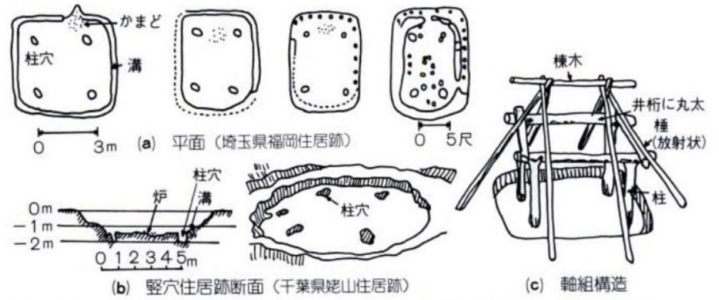
平安時代末期になり**武士階級が地方で勢力を増してくると、武家住居の発展が見られ、そこに禅宗の影響を得て書院造が形成されていく。**間取りは複雑化し、丸柱は間仕切り建具との関係で角柱となり、畳が敷き詰められ、部戸は舞良戸となり引違戸が誕生する。室礼としての押板、床の間、違棚、書院が形式化される。また、寝室としての納戸も名称を持つ。これらが洗練され、形式美をもったのは室町時代末期、桃山時代である。国宝光浄院客殿はその極致とされる。

**武家屋敷**も階級によって大きな違いがあるが、家族や使用人の暮らしの場と客の接待とに優劣が整理され、武家屋敷としての間取りも定式化される。複雑な間取りに対して自由に屋根をかけることができる和小屋の定着も同時に見ることができる。

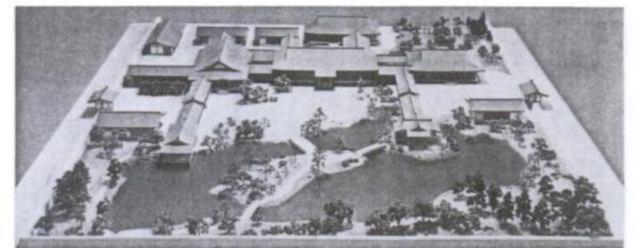
一方、平安京以来、京都における寺や、町屋も継続的な発展を遂げていく、とくに**京町家の都市住宅としての発展**には目を見張るものがあつた。世界の都市住居に共通した中庭（パティオ）を巧みに活用し、作業空間としての通り庭（土間、通路）も形式化されていった。

また、書院造の座敷で行われていた喫茶が、**千利休によって草庵茶の世界が創作され、数寄屋の手法・感性が生み出された**事は、町民・武家・僧侶・貴族のすべての階級に浸透していき、日本の住デザインにとって突出した出来事となった。

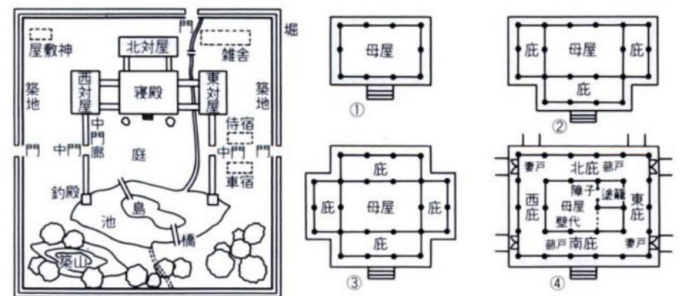
縄文、弥生時代の住居



奈良時代の貴族住居(藤原豊成の住宅)



(a)法住寺殿復元模型(白河法皇の御所、「年中行事絵巻」などをもとに復元、神奈川県立博物館)

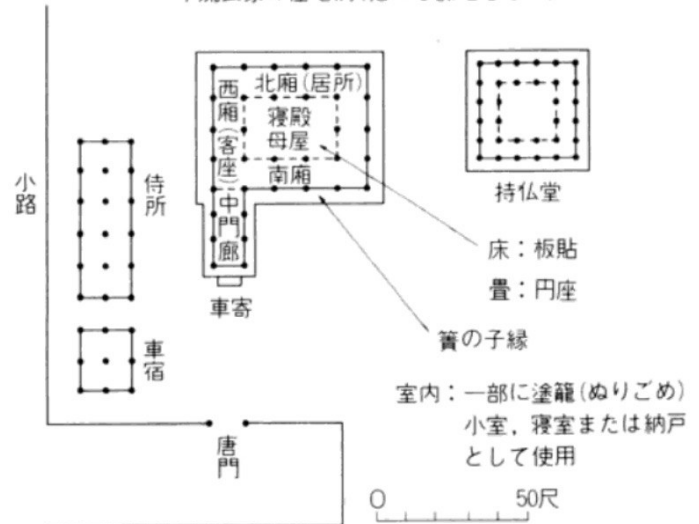


(b)寝殿造屋敷平面概念図

(c)母家・庇の構成の変化

寝殿造り(平安京)

中流公家の住宅例(他にも邸宅をもつ)



藤原定家の住宅

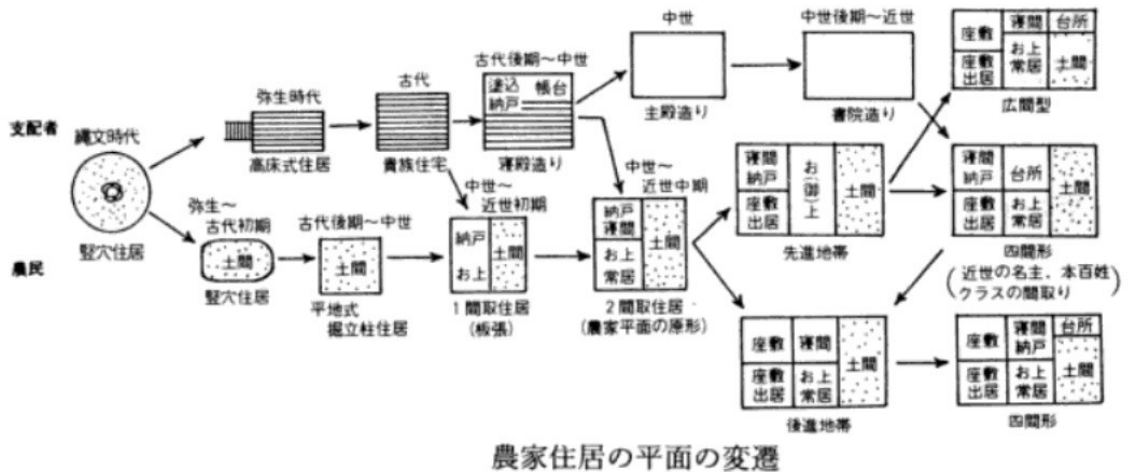


民家形式の分布図

福山敏男・川上 貢編著、「建築史図集—日本編—」, 学芸出版社(1964).



京都町家1階平面の例



農家住居の平面の変遷

江戸時代は封建制度が確立し、安定した武家社会を作り上げた、士農工商それぞれに独自の暮らしと住居が形式化されていった。その中で農民の住居は、地域の気候風土に順応した工夫がとられ、地方色豊かな発展を遂げる。また、江戸末期の養蚕の発展によりそれら民家も大きく改修され、より環境共生的な姿に革新されていった。それは明治時代まで継続する。農閑期の仕事としての織物、紙漉き、藁細工、竹籠網みなどの仕事場としての土間も欠かせないものであった。また、1950年代まで継続した土座の暮らしも土間と切り離す事はできなかった。さらに、農耕や運搬に活用された馬の居所としての馬小屋の同居という機能も農家の住居に欠かせないものとなっていた。

日本の住居の特徴の中に、高床と土間との組み合わせによる間取りがある。民俗学者宮本常一の説がこのことを理解するのにとても納得がいく。それは、日本に米をもたらした南中国の海洋民族の影響による、船で暮らす民族には床があることが基本、その民族が土座を生活の場としていた縄文時代からの日本の暮らしに合体したことによる。その初元的な姿が二棟造の民家なのだ。二棟造は、日本海側の川沿いに多く見られ、中国の海洋民族が定住していった姿を知ることができる。このような理解なのである。

## 日本の住宅は、大正モダンで民主化された

大正モダンは人々の暮らしにとって大きな革命となった。食事から服装、そして住宅のあり方についても、封建的なあり方から民主的なあり方、主に女性と子供のプライバシーを尊重したものとなった。料理も西洋的なものからアジア的なものまで取り入れられ大きく変容した。中廊下によるプライバシーの尊重、書院造を残しながらも客間としての洋間を付属させるなど、自由に改築が行われた。台所を立ち姿勢で行うことにしたのも革新的で合理的であった。

1920年の関東大震災による復興住宅は、不燃化と生活の合理化、西洋化などさまざまな実験的な革新が実施された。同潤会の一連の都市型集合住宅には魅力的なものが多かった。

## 第二次世界大戦後の復興住宅

第二次対戦後の復興住宅では1955年に発足した日本住宅公団による新時代への間取りの提案が多くなされた。これも日本の住居の発展に大きく影響した。特に中層住宅の普及においては、日本ではさまざまな新しい要素が必要とされた。また、工業化、量産化という新しい生産体制も求められた。

標準設計としてDK型プラン、配置設計として階段室型、廊下型、ポイント型が開発された。施工の分野では、部品化や工業化が進められた。

一方、建築家たちの復興住宅への試みは、自邸の建設から始まっていた。以下はその様子を紹介する。

## 増沢洵自邸「最小限住宅」

設計／増沢 洵 (1925-1990)、竣工1952、49.6㎡ | 15坪、東京都渋谷区大山町。

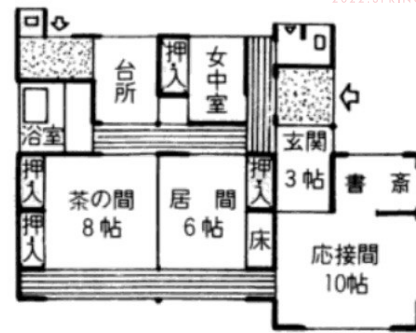
アントニン・レイモンド設計事務所事務所のスタッフだった増沢洵がこのデビュー作となる自邸を建てる時のデザインコンセプトは、正直さ、単純さ、直截さ(まわりくどくないこと)、経済性であった。浴室は寝室の付属になっていて、寝室からしか使えない。玄関はなく、居間に下打箱が置いてあり、簀のベランダで靴を脱いで直接居間に入る。窓は、水回り以外は、ガラス戸と障子、北面の窓は雨戸がある。この建物のためにデザインされた家具よって、空間の使い方が容易に想像出来る。小さいからこそ隅々まで考えられた建物になっている。タンス二竿、ミシン、オーディオのスピーカー、製図板が配置されている。

1階天井、小屋裏は構造材表し、余分なデッドスペース(天井フトコロ)がなく階高、天井高が押さえられ、1階内法6.6尺(2,000)で差し鴨居がきている。構造体表し、障子、天井の低い、小さな空間、一階居間と二階書斎・家事室をつなぐ階高7.4尺

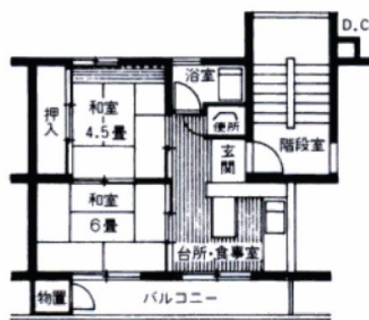
(2,242)の低い吹抜けが居心地の良い一体空間をつくっている。「住宅を考えると奥行きはどうしても3間が最小限になる。2間じゃ駄目だし、2間半でも狭い。それで3間角の総2階を考えたら18坪になる。でも当時の僕の月給だと15坪が融資の限度なんです。そこで3坪の吹き抜けができたわけです。」



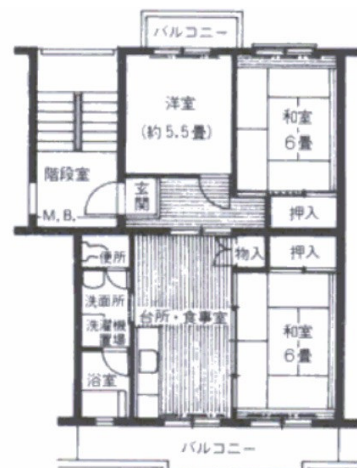
明治中期の和洋折衷住宅  
 太田博太郎著  
 「日本の住宅」彰国社刊(1948)



中廊下型住宅  
 大正6年改良住宅懸賞設計(1等)  
 (30.5坪 剣持初次郎氏案)

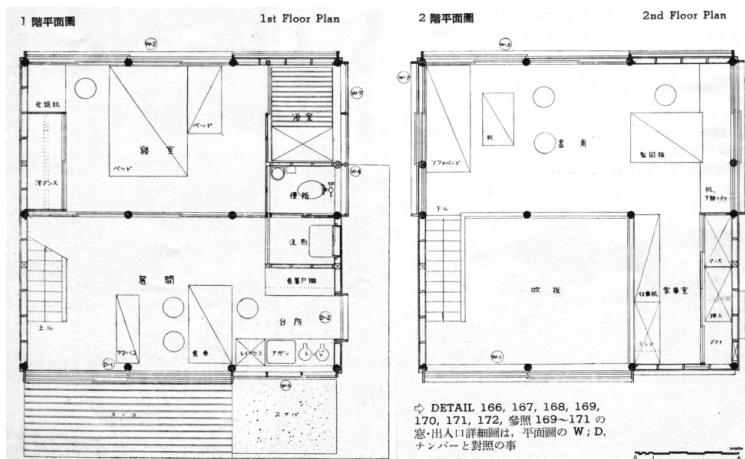


昭和32年度 (住居専有面積 35.04㎡  
 /バルコニー面積 6.08㎡)

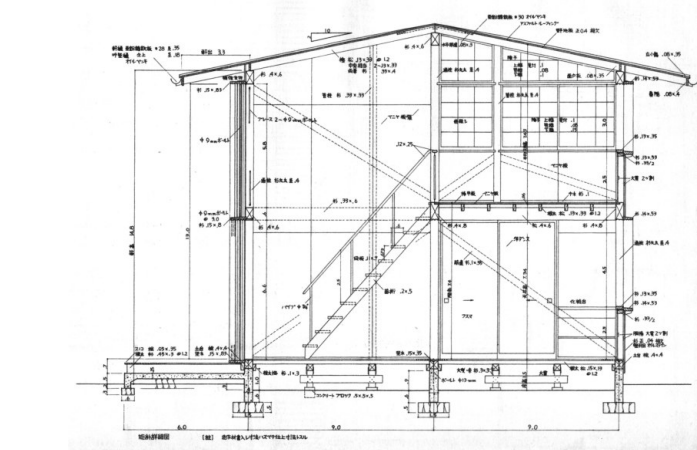


昭和57年度 (住居専有面積 60.91㎡  
 /バルコニー面積 11.67㎡)

公団住宅における標準設計の年代比較



◇ DETAIL 166, 167, 168, 169, 170, 171, 172, 参照 169-171の窓・出入口詳細図は、平面図の W; D. ナンバーと対照の事

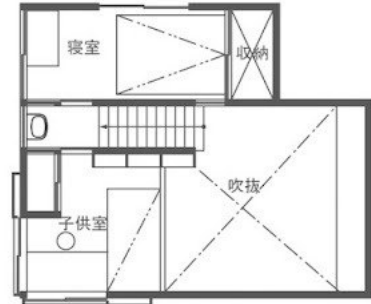


伊礼智著「伊礼智の住宅設計」X-Knowledge刊

## 立体最小限住宅

池辺 陽 (1920~1979) 竣工1950、47㎡、東京都新宿区。

戦後の復興住宅は50㎡以下に制限されていたため、立体最小限住宅となった。小さな家でも、広々と心地よく暮らせると同時に、無駄を省くために建築資材を工業化して、廉価で高品質の住宅を建てたい。そのためにも自宅を実証したいと考えいち早く建築したもの。大きな吹き抜け空間は、狭さは感じさせず、夏場はよく風が通り抜けた。手洗いが風呂場と一部屋になっていることは思い切った判断だった。さらに、玄関土間が無い。家事動線も単純であり働きやすい。階段室と子供室の間の壁を利用した、吹き抜け一杯の書棚は、多くの書籍を所蔵する本人ならではの設計。

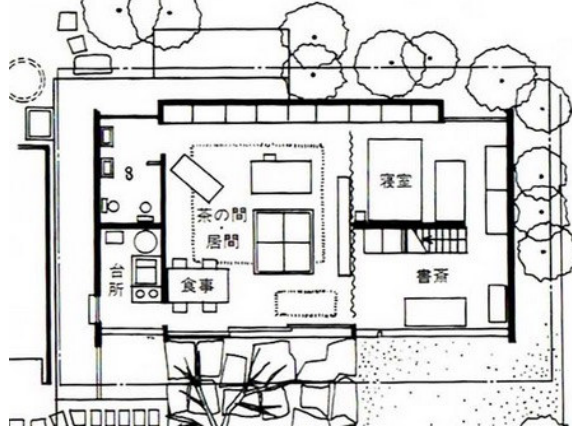


## 私の家

清家清 (1918~2005)

竣工1954、50㎡

東京都目黒区。



両親宅の敷地内に建てた自宅。平屋建ての鉄筋コンクリート造。建物の幅10m、奥行き5m、建築面積わずか50㎡、地下部分を含めた延べ床面積も70㎡という小型住宅である。清家は、日本のあるべき住宅の姿を追求し、落ち着けて掃除で疲労しない広さを、50㎡と割り出した。玄関、ドア、仕切りも一切なし。ワンルームに居間、寝室、書斎が割り振られている。洗面所やトイレにすらドアはない。その代わり、低い床下、移動式の畳があるのが特徴となっている。

## 伊礼智 (1959年沖縄生まれ) の「小さな家」70のレシピ

一住まいは小さな心地よい居場所の集合体と言えるのではないかと思います—まえがきより

“小さな家のレシピ”をまとめた。写真と図面を合わせて70の項目がある。心地よい小さな居場所づくりのアイデアがたくさん詰まっている。

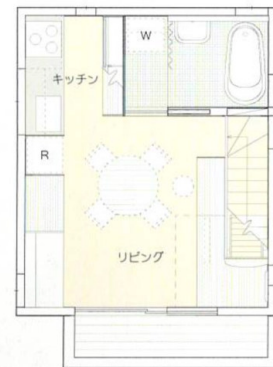
### ・レシピ抜粋

- |                        |                |
|------------------------|----------------|
| 小さな家は最大のエコ             | 小さくして質を上げる     |
| 常識的な寸法を疑う              | 場所を多義的に使う      |
| あちこちに居場所を設ける           | 開口部近傍に心地よさは宿る  |
| 敷地目一杯に建てない             | 対角線(最大視覚)を活用する |
| 小さくても子供たちが遊びに来やすい家を考える |                |
| 小さな家こそ、おおらかに暮らす        | 1坪の標準          |
| 小さな家は建具のデザインが効く        | 小さな家こそ、設計が自由   |
| 外観は素材を理解して決める          | 金物をケチってはいけない   |
| 小さな家は心地よさのセンサーが磨かれる    |                |
| 家具も部屋のボリュームに合わせて設計     |                |
| 小さな家は名作が多い             |                |
| 天井に照明を付けず、灯りの重心を低くする   |                |
| 天井は低めに                 | 玄関はコンパクトに      |
| 小さな家でも外物置は必要           |                |
| 軒は出せなくても庇はしっかり出す       |                |

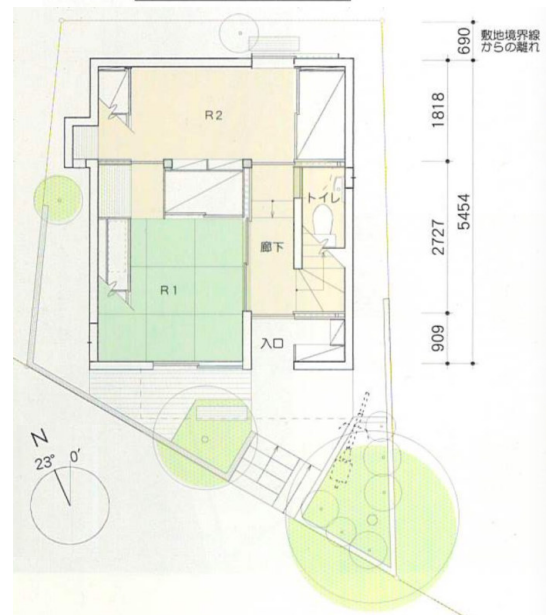
■持続可能な社会における住居はいかにあるべきか、その答えは「コンパクトで無駄のない余裕」「必要最小限ではなく、必要十分なコンパクト設計」「必要な造り付け家具と、臨機応変で季節ごとに変わる可動家具・道具の存在」なのではないだろうか。そして、必要な設備と装備された平面図では見えない設備であり空間が持続可能な住み心地を作っていく。空気、温湿度、気流、視覚、聴覚、さらに変化する緑、花、果実、昆虫、月、星、太陽などとの触れ合い出会いが肝心なのである。

引用資料：特記なきものは石堂正三郎・中根芳一「新住居学概論」化学同人刊

この論文は、さらに進化させて3月9日開催の静岡セミナーで講演します。皆様には、メール配信させていただきます。



設計伊礼智  
15坪の家  
49.9㎡





## エコハウス研究会活動レポート 丹波篠山

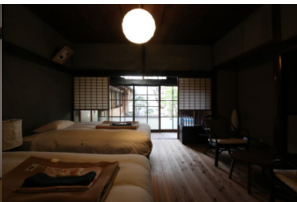
### 2月23日午前 河原町妻入商家群見学

御徒士町武家屋敷群  
河原町妻入商家群  
篠山城下町ホテル NIPPONIA YOMENA 棟  
篠山城下町ホテル NIPPONIA NOZI 棟  
立町



### 2月24日午前 篠山城周辺見学

篠山城下町ホテル NIPPONIA ONAE 棟  
篠山城下町ホテル NIPPONIA SAWASIRO 棟  
二階町  
篠山市歴史美術館  
鳳鳴酒造ほろ酔い城下蔵  
篠山城大書院  
青山歴史村



## 2022年エコハウス研究会活動スケジュール

### 2022年全国ツアー

テーマ：サシティナブル建築と

高断熱高気密の先にある家づくりは一つの道へ

講師 丸谷博男

時間 18:00～20:00

- |                |                |
|----------------|----------------|
| ① 1月31日 富山セミナー | ⑪ 5月18日 京都セミナー |
| ② 2月2日 金沢セミナー  | ⑫ 5月19日 大阪セミナー |
| ③ 2月3日 福井セミナー  | ⑬ 5月20日 岡山セミナー |
| ④ 3月9日 静岡セミナー  | ⑭ 6月6日 福岡セミナー  |
| ⑤ 4月6日 愛知セミナー  | ⑮ 6月7日 広島セミナー  |
| ⑥ 4月7日 岐阜セミナー  | ⑯ 6月9日 仙台セミナー  |
| ⑦ 4月8日 三重セミナー  | ⑰ 6月10日 盛岡セミナー |
| ⑧ 4月20日 秋田セミナー | ⑱ 6月11日 青森セミナー |
| ⑨ 4月21日 能代セミナー | ⑲ 6月22日 沖縄セミナー |
| ⑩ 4月22日 新潟セミナー | ⑳ 6月25日 栃木セミナー |
|                | ㉑ 6月26日 茨城セミナー |

### 古民家再生マスター養成講座第2期・京都

時間 14:00～18:00

- |              |                   |
|--------------|-------------------|
| ①2021年11月24日 | ⑤2022年2月23日(丹波篠山) |
| ②2021年11月25日 | ⑥2022年2月24日(丹波篠山) |
| ③2022年1月19日  | ⑦2022年3月23日       |
| ④2022年1月20日  | ⑧2022年3月24日       |

### 古民家再生マスター養成講座第3期・東京

時間 14:00～18:00

- |             |              |
|-------------|--------------|
| ①2022年6月15日 | ⑤2022年8月4日   |
| ②2022年6月16日 | ⑥2022年9月14日  |
| ③2022年7月13日 | ⑦2022年10月12日 |
| ④2022年8月3日  | ⑧2022年10月13日 |

### 国産針葉樹活用促進プロジェクト

- ④2022年1月26日
- ⑤2022年2月16日
- ⑥2022年3月16日

### オンラインセミナー

建材・工法

- ①2022年4月16日13:00～18:00
  - ②2022年11月12日13:00～18:00
- 研究開発

2022年10月1日

### 正会員合宿 in 岡山

- 2022年9月10日13:00～17:00
- 2022年9月11日10:00～16:00

## 一般社団法人エコハウス研究会

本部 東京都世田谷区代田3-48-5 梅ヶ丘アートセンター  
事務局 東京都国立市富士見台2-12-32

代表理事 丸谷博男(株式会社エーアンドエー・セントラル代表取締役)  
理事 若原一貴(日本大学芸術学部准教授)  
理事(事務局長) 磯貝左千夫(株式会社ジェイボックス代表取締役)

### 幹事

東北エリア 高木 正基(高木電気管理事務所)	北陸エリア 永森 裕章(株式会社ジュープラス)
関東・沖縄エリア 菅原 律子(菅原律子設計事務所 +itS)	関西エリア 上原 弘一郎(ウイズダムデザイン)
関東エリア 萩原 太介(株式会社ホーム空間創建)	関西エリア 新堂 雄美(A.S.A.P. デザインラボ)
静岡エリア 永田 草人(株式会社永田デザイン)	九州エリア 金子 知史(金子工務店)
浜松エリア 大石 智(有限会社大石設計室)	